

日本学術振興会アジア研究拠点事業 リスク評価に基づくアジア型統合的流域管理のための研究教育拠点 第1回包括シンポジウム

代表者： 清水芳久
開催日時： 2012年2月28日
開催場所： 京都大学桂キャンパス人融ホール

主催： 京都大学大学院工学研究科
共催： 京都大学グローバル COE プログラム「アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点」、京都大学 EML プログラム「環境マネジメント人材育成国際拠点」

参加人数： 約120名

主な参加者： 清水芳久、米田稔、津野洋、松岡譲、田中宏明、伊藤禎彦、高野裕久、高岡昌輝（教授、都市環境工学専攻）、藤井滋穂（教授、地球環境学堂）、中村正久（教授、滋賀大学）、谷口文章（教授、甲南大学）、井手慎司（教授、滋賀県立大学）、山本裕史（准教授、徳島大学）、佐藤圭輔（講師、立命館大学）、滝上英孝（国立環境研究所）、Nik Meriam Binti Nik Sulaiman, Mohd Jamil Bin Maah, Md Ghazaly Bin Shaaban, Mustafa Bin Ali Mohd, and Hilmi Bin Mahmud (Prof., Univ. of Malaya); Zulkifli Yusop (Univ Teknol. Malaysia); Salmaan H. Inayat-Hussain, Mazlin Bin Mokhtar, Lee Yook Heng, Ekhwan Bin Toriman, Muhammad Barzani Gasim (Univ. Kebangsaan Malaysia)

目的・概要

本事業は平成23年度から始まったもので、今回のシンポジウムが両国の研究者が一堂に会する初めての機会となりました。今回のシンポジウムでは両国の研究者で顔合わせを行うとともに、4つのグループ（水文、水質、環境リスク、ガバナンス）それぞれの今後4年間の研究計画について話し合うことを目的としたものです。

シンポジウムの様子・得られた成果

シンポジウムではまず小森悟工学研究科長が開会の挨拶を行い、これまでの30年近くに渡る本研究科とマレーシアの諸大学との交流の歴史を踏まえて、今後も本事業を工学研究科として支援していく旨、述べられました。

次に、日本側コーディネーターの清水芳久教授が本研究科とマレーシアのこれまでの交流事業について振り返るとともに、本事業の目標とこれまでの事業との違いについて紹介しました。

その後マレーシア側コーディネーターの Nik Meriam Nik Sulaiman マラヤ大学教授が本事業の4グループ各々が行う研究と相互の関わり的重要性について述べた後、水の大切さを啓発するビデオを紹介されました。

引き続き、グループ4（ガバナンス）の日本側

リーダーである中村正久滋賀大学教授に、「統合的湖沼流域管理」についての基調講演をして頂きました。

午後からは各グループに分かれて議論を行い、今後の研究及び交流計画について具体的に案を出し、全員の前で議論のまとめを発表してもらいました。

本シンポジウムでは、今後の5年間の研究・教育拠点形成のための方向性を明確にすることができました。マレーシア側の43名の出席者を含めて、120人以上の参加者があり、盛会の内に終了することができました。



シンポジウム会場の参加者